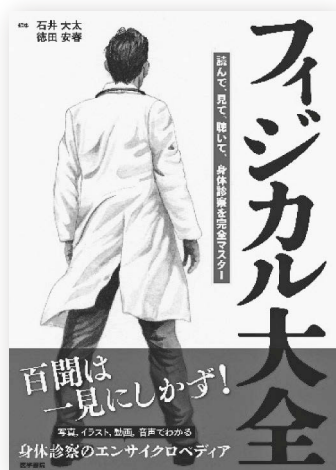




“身体診察の決定版”とも呼ぶべき 渾身の一冊

評者 鈴木富雄 大阪医科薬科大教授・総合診療医学



フィジカル大全
読んで、見て、聴いて、
身体診察を完全マスター
石井大太、徳田安春＝編

定価：7,700 円（本体 7,000 円＋税 10%）
B5・472 頁／医学書院／2025
[ISBN978-4-260-05731-8]

本書は、従来の身体診察の教科書とは一線を画す、“身体診察の決定版”とも呼ぶべき渾身の一冊である。各臓器別（循環器系、呼吸器系、筋骨格系、神経系など）に分類された診察手技について、診療に必要な基本的な方法が正確かつきわめていいに記載されているのはもちろんのこと、臨床的には有用と耳にしたことはあっても、これまで実際の診察方法について十分に記述されてこなかったような、ややマニアックな手技に関しても、明瞭なカラー写真や図解を交えて詳細かつ実践的に解説されている。身体診察に関する書籍は数多く存在するが、ここまで系統的かつ網羅的に、そして現場の臨床家の目線に立って記述されたものはきわめてまれである。

本書のもう 1 つの大きな魅力は、Web 上からアクセス可能な多数の動画が用意されている点である。重要な診察手技については、紙面での理解を補完するように、実際の動作を視覚的に確認できる動画が付属しており、学習効果を飛躍的に高めている。なかには音声解説付きの動画もあり、まるで熟練の臨床医がそばで直接指導してくれているかのような臨場感と安心感の中で学ぶことができる。

本書は、初学者にとってはいい記述で基礎を固めるのに適しており、また経験を積んだ臨床医にとっても、見落とされがちな手技や解剖学的背景を再確認し、診察の質をさらに高めるための示唆に満ちている。まさに、身体診察を改めて学び直したい全ての医師にとって有益であるとともに、学生・研修医など若い世代に身体診察の面白さや重要性を伝えたい臨床教育者にもぜひ手に取ってほしい内容である。

文章も平易で読みやすく、それでいて内容は奥深い。解説の随所に臨床的な背景や注意点が巧みに織り込まれており、単なる手技の羅列ではなく、“生きた診察”を学べる技術書としての完成度はきわめて高い。読者の診察に対する感受性を豊かにし、目の前の患者と真摯に向き合う姿勢そのものを再考させるような、静かな感動をも呼び起こす。身体診察が軽視されがちな現代医療において、本書はその意義と可能性を再認識させてくれる、力強いメッセージを内包している。実技と知識の双方を融合させた本書は、今後長きにわたって多くの臨床家の座右の書となるに違いない。

なお、付録動画のなかには音声解説が付いていないものもあり、その場合には紙面の記述と照らし合わせながら理解する必要があるため、やや手間を感じることもあるかもしれない。今後の改訂の際に全ての動画に簡潔なナレーションや要点の解説が加われば、動画だけでも理解が深まる、より完成度の高い学習教材へと発展していくと思われる。本書の今後のさらなる進化にも、大いに期待したい。

⑥